

◎遺棄手當

船主	船名	月日	解 決 條 項
尾崎汽船	三星丸	五月廿四日	解散手當は協同會規定通り向ふ二ヶ月分、遭難地より雇入地迄の旅費、心付として各自五圓支給、流出品手當として實費支給
町田汽船	神光丸	五月廿九日	一、遺棄手當二ヶ月分 二、流出品手當三ヶ月分 三、旅費十圓
飯野商事	日本丸	七月二日	失業手當二ヶ月分、所持品手當一ヶ月分、旅費十五圓支給
濱根汽船	とよひめ丸	七月五日	海軍協同會規定通り支給（流失品手當共四ヶ月分及旅費二十圓支給）
橋本組	八幡丸	同 右	乗組員所持品全部を携帶上陸せる爲、失業手當として二ヶ月分旅費十圓支給、永年勤続者には慰勞金一封支給
橋谷汽船	第五大星丸	九月八日	歸還旅費十六圓、九月八日迄の給料、解雇手當二ヶ月分流失品なし、洗滌代として給料の半ヶ月外に慰勞手當として一人宛七圓支給
笠原商事	平安丸	七月廿三日	海軍協同會遺棄手當規定を適用して旅費として各自八圓及解散當日までの給料支給
茨布海商	盛典丸	七月九日	一、所持品手當三ヶ月分、失業手當二ヶ月分、旅費十五圓 二、外に金一封として一人宛二十圓 尙病人は直に入院せしめ希望者は歸國治療せしむ
藤山海運	第二ときわ丸	二月二十日	一、遺棄手當は海軍協同會の協定に基づく事 二、歸國旅費各自二十圓 遭難船員は社船乗船の優先権を與へる事
大阪商船	ばりい丸	三月十日	（所持品手當）給料の三ヶ月分支給
藤田船部	妙太安丸	三月廿五日	一、失業手當二ヶ月分 二、遺棄手當より三月十五日迄の給料支給 三、旅費及慰勞金として三十五圓支給

◎船主手當

船主 船名 月日 解 決 條 項
 矢吹船舶部 晴海丸 八月廿二日 三年未滿二ヶ月、五年未滿二ヶ月四分の一、七年未滿二ヶ月半、七年以上三ヶ月、各員旅費十五圓

○個人交渉記録

社名	船名	職名	氏名	社名	船名	職名	氏名
日出汽船	長久丸	差大場時太郎	日魯漁業 東 丸 油 差 黒田民治	同	同	舵夫	仁郷國代壽
攝津商船	志摩丸	夫竹中政造	佐藤國汽船 天祐丸	近海郵船	正木丸	同	金澤吉三
小谷汽船	千島丸	長崎文次郎	攝津商船 朝熊丸	東洋汽船	旺洋丸	夫山崎	竹松
原田汽船	照國丸	山下盛三	日魯漁業 様名丸	松田汽船	松久丸	水夫	伊勢梅太郎
松岡汽船	豊川丸	夫東彦之進	國際汽船 豐福丸	同	同	舵夫	小川萬太郎
豊彦汽船	第二豊彦丸	夫小田桐長五郎	松谷汽船 彌彦丸	同	同	舵夫	小川萬太郎
日本合同工船	昭平丸	夫佐々木政雄	明治海運 明字丸	東洋汽船	旺洋丸	夫宮田	馬吉
同	長門丸	夫谷敏雄	松馬汽船 染殿丸	日本タンカー	永洋丸	水夫	鈴木幸三
同	昭平丸	夫木操助	森布海商 東榮丸	平出商事	津輕丸	夫木下	幸雄
同	同	夫川豊	日出汽船 勢州丸	日本工船	肥後丸	夫長久保	誠太郎
原田汽船	盛運丸	夫住東	南洋貿易 第六平榮丸	千島商船	三種丸	夫板谷	牛之助